

この日 ちよつと むかひ

あけましておめでとぅいびいびいびい。今年も、
タマおばあさんに語ってもらおう形でございらの
昔をまとめました。今と違ったお正月を比べて
みませんか。



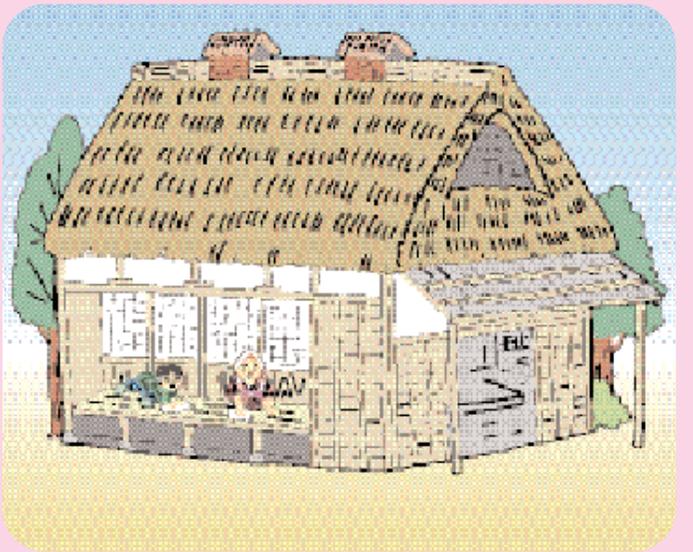
お正月の三が日の朝は
ね、お父さんが、早く起き
て神棚にお供えを上げて、
祝膳の支度をするの。
と言つても、大みそかに
お母さんたちがお雑煮に入
れる小松菜を洗っておいた
り、大根や里芋なんかをゆ
でたりして、ちゃんとして
しらすしてくれてるんだ
よ。だから三が日は、お父
さんが大忙しでおつゆを温
めたり、いろいろのおもちを
焼いたりするんだよ。そこ
へお母さんがゆつくりとお
正月らしく身支度して出て

三が日

くるんで、なんだかおもしろ
かったよ。

祝膳といつても、お雑煮
にちくわとこんにゃくの煮
物ぐらいで、今では珍しく
ないものだけど、昔はおも
ちを食べられるだけでもご
ちそうだったの。

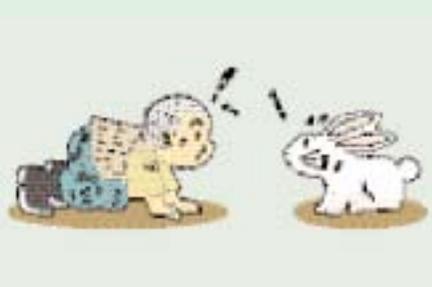
友達の家ではね、元旦に
家族全員で家中をぞうきん
がけするつて言つてたよ。
大きいかまにお湯を沸かし
て、それこそ天井のほりか
ら敷居まで隅々拭き清めた
つて。「拭く」は「福」に
通じるつていって、元旦に
家中を拭いて福を呼び込む
んだね。そのときに「あ、
ふく」つて言いながら拭く
んだつて。



うちでは、三が日の間、
拭き掃除はいいけど、ほう
きを持つちやいけな、つ
て言われた。ほうきで掃き
出すとその年の福を掃き出
しちやうからだつて。昔は
ごろ合わせが多かつたね。

ふだんは家の仕事を手伝
つたり、弟や妹の面倒を見
ないといけないでしょ。お
正月は近所の友達やいとこ
といつしよにいるはがるた
や羽根つきができて楽しか
つたの。

昔は野うさぎがいてね、
畑のお茶の木の下なんか
隠れているの。
ここいら辺は畑の仕切り
にお茶の木を植えてあつた
から、ちよつと隠れやすい
んだね。
雪が降つて近所の家でう
さぎ狩りをするとき弟はよ
く手伝われたんだよ。う
さぎは、すばしこくてふ
だんは捕まえられないんだ
けど、雪が降ると足跡がつ
くでしょ。うさぎは一度通
つた所を必ず戻つてくるど
いうんで、足跡のついてい
る場所に網を張つておくん
だつて。



うさぎ狩り

の都合がいいの。大人が
うさぎを見つけて追い出す
でしょ。うさぎは一目散
に、元きた道に戻るから、
そこに張つてある網にかか
つちゃうのね。
うさぎ狩りは楽しい冬の
遊びだったんでしょね。

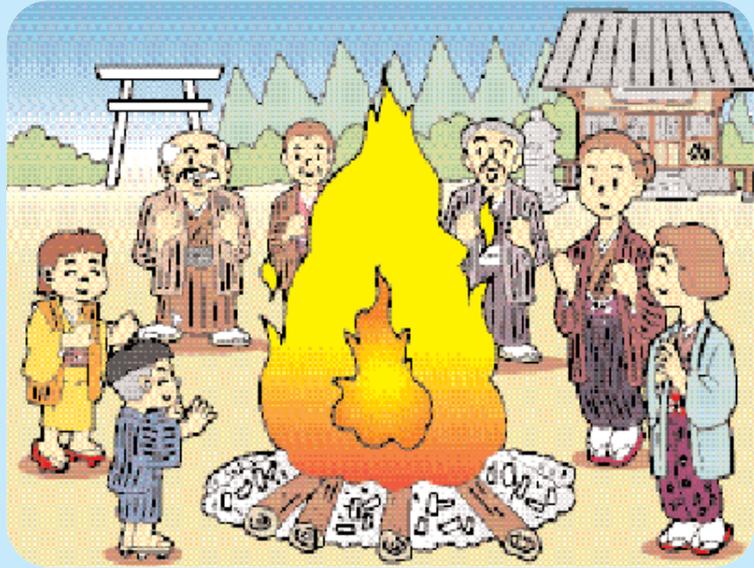
初まり

わたしが子どものころ
は、大みそかの晩から元旦
の朝にかけて初参りに行つ
たんだよ。今は初詣つて言
うけど、昔は初参りつて言
つたね。

をしたり、いろんな話をし
たりしてね。
子どもも友達やいとこた
ちに会うでしょ。みんなお
ろしたての着物を着せても
らつて、いつもよりちよつ
とよそ行きの格好をしてる
んだよ。

近くの神社なんだけど、
行くまではとつても寒い
の。だげと境内では古いお
札を燃やしていてね。それ
が8畳間ぐらいもある大き
なたき火で、ほんほん燃え
てるからちよつとも寒くない
の。たき火のまきは暮れに
近所の家で出すんだよ。

昔は新しいものをおろす
のはお正月つて言われて、
それまでは着せてもらえな
いの。今は洋服でも靴でも
買ってもらうつたら、すぐお
ろすつてね。



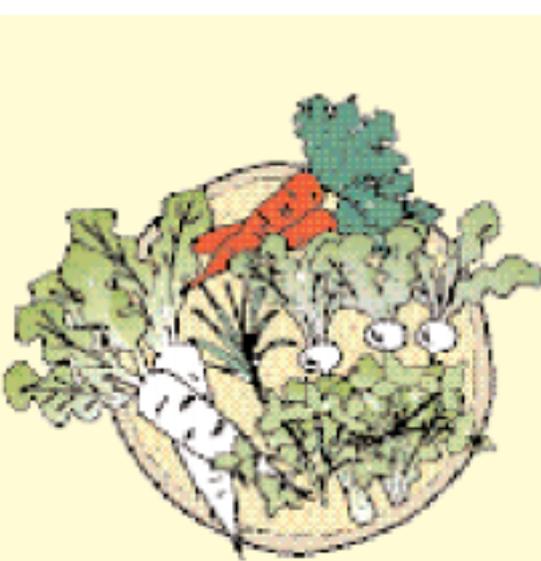
初参りのときに、新しく縫ってもらった着物なんかを着せてもらうつてうれしくてね。なんだかとも晴れがましい気分がしたよ。

初参りに来るのは近くに
住む人ばかりだから、みな
な知り合いでしょ、大人は
火を囲んで新年のあいさつ

会う友達もみんなここに
してたよ。
参道には、こんにゃくの
味噌を付けたの、縁起物や

風船、味付けの貝のひも、
飴なんかを売る露店も出て
いてね、それを買つてもら
うのも楽しみだつたの。

会う友達もみんなここに
してたよ。
参道には、こんにゃくの
味噌を付けたの、縁起物や



七草がゆ 蒭開き

七日にはお供えをみんな
下げて、松飾りをしてある
家は、それも片づけるの。
朝は七草がゆを食べるん
だけだ。本当の七草はそ
わないから、なすなど大根
(すずしろ)、後はにんじ
んなんかの野菜を入れて7
種類にしたんだよ。

「七草なすな 唐土(と
うご)の鳥が 渡らぬうち
に すとのんとんとん」
そう言いながら、お母さ
んが七草がゆに入れる野菜
を刻んだの。そのときに一
気に言わなといけないな
だつて。

七草がゆはすぐおなかが
すいちゃうから、うちじ
や、小さく切つたおもちが
入つたの。
十一日は今は鏡開きとい

うけど、昔は蒭開きといつ
て、蒭を開けたんだよ。お
供えもちで作つたお雑煮
を、蒭に上げてみんなでお
べたの。
おもちはおちそうで、た
くさんついたから、カビが
生えないように水の中に
つけて、水もちにしていつ
までも食べたんだよ。

かい水もちでも冷えるとか
たくなるでしょ。だからお
弁当箱に入れたのをふるし
きに包んで、腰に巻いて持
つていったの。自分の体温
でおもちを温めておくんだ
ね。
それがね、男の子なん
か、じつとしていないでし
よ。腰につけたお弁当箱の
中のおもちが片方に寄つ
て、一つに固まつてしま
うんだよ。なかなか食べら
れなくて、見ておかしかつ
たよ。



タマおばあさんのお話、
いかがでしたか？
ご感想を小平民話の会
(高津 ☎042(343)6077)
か広報広聴課まで、ど
うぞお寄せください。